



大森六中だより

令和4年 6月号

大田区立大森第六中学校

統括校長 菅野 哲郎

TEL 3726-7155



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

ルールを守るべき10個の理由

梅雨はうっとうしい季節です。うっとうしいと言えば、規則やルールをうっとうしいと思う人もいるかもしれません。そこで今日は「ルールを守るべき10個の理由」というお話を紹介します。

1.秩序を保つことができる

法を守り、社会に平和と秩序をもたらすことは人間が生きる上で必要不可欠です。日本はこれでも治安は良い方なので、より良い秩序を保つため、国民全員で法を順守したいものです。

2.平和な環境になる

一人一人がルールを守らなければ安心、安全な平和は訪れません。たった一人の無粋な行動が、社会全体を揺るがすことにもなります。平和を維持するには、一人一人が意識してルールを守らなければいけません。

3.信頼される人になれる

約束を守る人は信頼され、守らない人は信頼を失います。自覚がない人ほど、自己管理は甘くなるようです。身近なルールほど、扱いが雑になりやすいので、注意しましょう。

4.社会に出る訓練になる

ルールが厳格な会社勤めは、学生時代には味わったことがないストレスを感じるでしょう。一人暮らしで感じるストレスは、実家で暮らし

ていた学生時代では想像もできないでしょう。家事を自分でやるなども、ちょっとした訓練になります。

5.身の安全を守れる

例えば、立ち入り禁止の危ない場所には近寄らない、など。危険性があるからこそ、立ち入り禁止というルールがあるのです。それを守らなければ当然事故に遭う確率は高くなります。安全を確保できない場所でのルールは絶対に守るようにしましょう。

6.生活がより良くなる

人の心とは弱いもので、きちんと管理しなければすぐに、楽な方へ行きたがるものです。そしてその方向は、あまり良い結果をもたらしてはくれないでしょう。生活を良くする、人生を良くするということは、自分を律しながらいばらの道を歩くことによって初めて手に入れられる感触です。楽ばかりしていたら、免疫がなくなり、辛い時にすぐ逃げ出してしまうでしょう。それでは良質な結果を生むことはできません。帰宅時間を想定して、夕飯食べて、お風呂に入って、次の日に備えてきちんと睡眠時間も確保する。その上で自分に残された時間は現実的にどれほどあるのか？それを正確に分析して、「残された時間は勉強に充てるルール」を自分で設け

なければいけません。そこまで徹底してやらないと、日々の疲労に敗北し、勉強することはまずないでしょう。その自分ルールを日々のルーティンにすれば、生活に張りが出て、ダラダラと過ごすこともなくなります。

7.油断やスキが生まれるのを防ぐ

ルールを意識して自己管理するという事は、常に気持ちを張ってアンテナを立てているとも言えます。集中力を高め、維持していれば当然油断もしませんし、隙も生まれません。自分ルールでも、社会ルールでも同じですが、それを守ったうえで行動するという意識は、心にハリと弾力を与えます。そのハリと弾力は、心の秩序を維持してくれます。心が理路整然としていれば、このストレス社会にも強気で立ち向かうことも可能です。逆に心がハリと弾力を失いカサカサに乾いているのなら、社会という大きな荒波に飲み込まれることにもなります。それはストレスに負け、人生を悲観的に見ることにも繋がってしまいます。ルールを順守するという事は、心の平穏を維持する、とも言えるでしょう。

8.孤立や迫害を避ける

ルールを安易に破る人は、当然冷やかな視線で見られます。組織においてルールを守れない人は、本人の自覚無自覚関係なく、信頼を失いつのまにか孤立しているでしょう。一度その境遇に陥ると、そこから抜け出すことは容易ではありません。失った信頼を取り戻すことは簡単にはできるものではありませんから。もしその人が組織で、立場が低い人であれば、迫害されることも充分にあります。「あの人、好き勝手やって全然ルール守らないんだよね」という噂は瞬く間に広がり、悪評が浸透してしまいます。どんなにがんばっても、悪評がある人は相応の評

価はされません。

9.ルールの形骸化を防ぐ

実際にはあまり意味がないルール、というのもあります。守っても守らなくてもあまり変わらないように思えるルールは、もうルールと呼べるものではありません。ルールの形骸化を防ぐには、元々のルールを継続して順守しなければいけません。

10.円滑な人間関係の形成

人間関係においては、距離感もルールのうちでしょう。人の心に土足で上がるような無粋な人もいますが、そういう人は嫌われてしまうでしょう。ルールやモラル、マナーをきちんと守り、適切な距離感を保てれば、円滑で良好な人間関係を築くことができるでしょう。逆にそれらが守られなければ、信頼も失い、孤立し、人間関係で苦しむことになります。性格の良し悪し、相性などは、それらのルールが守られてから初めて問題になるものです。言い換えれば、ルールさえ守れていれば、そこまで人間関係で悩むことはない、ということです。

ルールを守る大切さ

社会の秩序、人間関係などを、整理整頓してくれるものがルールです。ルールさえ守っていれば、身の回りのことは最低限、良質な状態で維持することができるでしょう。守らなければ、どんな災難が降りかかってきても、文句も言えません…。孤立、嫌悪、ストレスなどの災厄は、あっという間に降りかかってきます。ルールの意味と目的を理解して、安心安全で、平和な日常を満喫しましょう！

(6月6日朝礼 校長講話より)

CoCoSiA(ココシア)より引用 CoCoSiA(ココシア)とは「ここで知るシアワセ」をテーマに運営しているWEBメディア。恋愛・人間関係・ライフスタイルなどのテーマで情報発信している。

第三学年修学旅行

一寸光陰 過去から未来へ 東北・岩手

5月11日（水）～13（金）にかけて、第三学年の修学旅行が実施されました。東北地方の歴史や文化、自然に触れるとともに、東日本大震災の遺構を訪ね、かけがえのない学びを得ることができました。

（1日目）中尊寺参詣 工芸体験



（2日目）気仙沼市東日本大震災遺構伝承館見学 陸前高田復興祈念公園訪問 学校防災振り返り



（3日目）巖美溪散策 わんこそば体験



三年生にとっては念願の宿泊行事となりました。

共に学び、共に笑いあった充実の三日間。絆を深めた仲間とともに、次の一步を踏み出していきます。

持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

ホタル放流式

今年で11回目となるホタル放流式は、大盛況でした。地域の方がたくさん集まり、保育園の園児さん、幼稚園の園児さんなど、小さいお子さんもたくさんいて、中学生が放流するホタルが足りなくなるほどでした。

校舎内で9ヶ月飼育しているヘイケボタルの幼虫は、毎年横浜ホタルの会会長丸茂氏から分けていただき、指導を受けて育てています。昨年度は残念ながら数が少なくなってしまい、大分ホタルの会の方に補充していただきましたが、今年度は自然科学部の生徒が一生懸命水替えを行い、立派に育ちました。

ホタルは環境指標生物です。ホタルも棲める環境を目指しています。

6月中旬頃から夜8時頃、水生植物園周辺で光を放つと思います。是非、親子で鑑賞して下さい。地域で参加された方から、お礼の手紙をいただきました。校舎内に写真と共に掲示してあります。

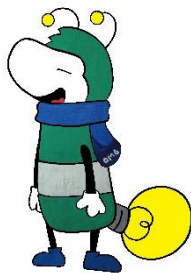


ゴーヤグリーンカーテン設置

「SDGs 13 気候変動に具体的な対策を」という持続可能な開発目標があります。毎年、教室の南側テラスにゴーヤグリーンカーテンを設置して、少しでも暑さをしのぐ手立てを行っています。全校生徒のうち137名が参加し、設置作業に関わってくれました。その中でも野球部がコンポスの土をプランターに入れる重労働で、活躍し日頃の体力作りの成果を見せくれました。

汚れた場所をしっかりと掃除をして、最後まで気持ちの良い活動となりました。

収穫したゴーヤは給食の食材として使用されます。ゴーヤ!大きくなーれ!



農援隊キャラクター

ホタルン

